

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
学力の育成	(全校レベル) (1) 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	<p>○学校生活の基本は授業であることを生徒に理解させ、わかる授業の展開に努めてほしい。</p> <p>○研究授業は大変であるが、学校全体の指導力の向上には大切であることを理解してほしい。</p> <p>○目標に対する計画は評価できる。取り組まれる生徒さんに期待したい。</p> <p>○少人数での専門教育が学べる三好高校は素晴らしく思う。生徒が認められ、自信をつけて社会へ出て行くことのできる教育活動を今後も続けてほしい。</p> <p>○日々の習慣を継続することが成果となり、自信へと繋がる。今後も継続した取組が大切である。</p>	<p>○基礎学力については、まだまだ十分ではない。これからも計画的、継続的な指導が必要である。特に、個別指導の効果は大きく、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。</p> <p>○校内漢字検定、マナトレについては、停滞している生徒にもっと焦点を当て、指導していきたい。</p> <p>○授業力向上に向け、職員研修会だけに頼ることなく、普段の中で情報の共有、伝達等が行えるような工夫をしていきたい。</p>
	(下位組織レベル) (1) 基礎学力の向上を行う (2) 教科指導の充実とレベルアップを行う	<p>(1) 生徒の授業満足度調査 80%以上</p> <p>(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上</p> <p>(3) 生徒の成績状況調査 年2回以上</p> <p>(4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 80%以上</p> <p>(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 C-Eランク 75%以上</p> <p>(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回以上 授業力向上職員研修会 1回以上</p>	<p>(1) 生徒の授業満足度調査 70.9%</p> <p>(2) 授業実施時間数の状況調査 年度末に調査予定 26.7時間</p> <p>(3) 生徒の成績状況調査 年3回</p> <p>(4) 漢字検定実施状況調査 10回 5級以上 74.2%</p> <p>(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 17回 C-Eランク 55.8%</p> <p>(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 10回 授業力向上職員研修会 1回</p>	C	B		
		活動計画	活動計画の実施状況				
		<p>(1)-1 成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。</p> <p>(1)-2 追試・補講を実施して強力に指導を行う。</p> <p>(2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。</p> <p>(3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。</p> <p>(4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。</p> <p>(5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。</p> <p>(6)-1 年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。</p> <p>(6)-2 教職員研修計画を作成し指導力の向上を図る。</p>	<p>(1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。</p> <p>(1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。</p> <p>(2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。</p> <p>(3) 5, 9, 1月に実力テストを実施した。</p> <p>(4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年10回実施)</p> <p>(5) 各ホームルームに3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、17回実施した。</p> <p>(6)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。</p> <p>(6)-2 12月に授業力向上に関する職員研修会を実施した。また、のべ10回の研究授業を行った。</p>	<p>(所見)</p> <p>おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを、全校集会等で事あるごとに話をしてきた。その結果、授業態度はだいぶ良くなってきている。しかし、まだまだ取組の甘い者もおり、残念ながら十分とは言えない。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取組として効果を上げているが、まだまだ生徒によって取組に差がある。</p>			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	今後の改善方策
学力の育成	(全校レベル) (1)読書力の向上を図る。 (下位組織レベル) (1)読書活動の推進に努める。 (2)読書環境の充実に努める。 (3)「読書の日」を設け意識の向上を図る。	評価指標 (1)校内図書館の読書冊数の増加率 10%以上 (2)読書の生活化プロジェクトⅢにおける家庭での平均読書時間 10分以上 (3)蔵書数の増加率 5%以上 (4)図書室通信の発行 年6回以上 (5)「読書の日」の実施 年11回 (6)購入希望図書アンケートの実施 年10回	評価指標の達成度 (1)校内図書館の読書冊数の増加率 -17% (2)読書の生活化プロジェクトⅢにおける家庭での平均読書時間 12.4分 (3)蔵書数の増加率 -1% (4)図書室通信の発行 年11回 (5)「読書の日」の実施 年11回 (6)購入希望図書アンケートの実施 年2回	評定 C A B A A C	総合評価 B (所見) 生徒との情報交換や、生徒へのアンケート実施により、幅広いジャンルの本を購入したが、ライトノベル等を好む生徒が依然として多い。生徒の希望も叶えつつ、教育的な活動とのバランスを考えながら購入図書を定めていかなければならない。 耐震化の工事をした際、古い本(内容や情報が現在にそぐわない)を廃棄したため蔵書数が減った。また工事中図書館を閉館しており、図書館利用者数と貸出数も減少した。 1年生が多く利用しているが、貸出数が多いのは特定の生徒によるものである。今後は全校生徒に読書を啓発推進する必要がある。	○携帯電話等の普及により、本を読む機会が少なくなった。図書館通信の発刊や読書の日の策定により、魅力ある図書館にすることが大切と思う。 ○継続した読書指導を実施していただきたい。 ○「1秒の世界」という本をぜひ子どもに読ませたい。いま現在、地球上で起こっている「巨大な変化」を、「1秒」という時間で切り取ることによって、「地球の、いま」をリアルに認識、把握できる本である。 ○スマホ等の影響で益々読書離れが進んでいるのかもしれないが、読書の楽しさを知ることがポイントのように思う。 ○文字を読む習慣を身につけることが将来の生活に役立つと思うので、文芸書に固執せず、本を手にすることが大切と思う。 ○新聞記事について発表させるのも良いのではないかと。 ○読書の日年間11回実施はうれしいこと。	○図書委員の活動を活発にし、図書委員の活動を通して読書の啓発を行う。また、図書館の展示や企画を図書委員を使って行う。 ○時事や季節に応じた企画展示を行う。 ○授業で図書室を利用してもらえるように働きかける。各教科で年1回は利用してもらえるように、学習内容に関連した図書の充実にを図る。
		活動計画 (1)読書の日を毎月1回設定し、教職員に本を選定してもらおう。 (2)家庭読書週間を設定し家庭への啓発を行う。 (3)生徒のニーズにあった図書を購入し蔵書の充実に努める。 (4)図書だよりを通して、新刊図書など最新の情報を提供する (5)推薦図書コーナーの充実に努める。 (6)購入希望図書アンケートをもとに購入した本のコーナーを設置する。	活動計画の実施状況 (1)年11回実施できた。 (2)家庭読書週間を設定し、1週間家庭での読書時間の調査を行った。 (3)図書だよりを通して、最新の情報を毎月提供できた。 (4)司書おすすめの本を毎月紹介できた。 (5)生徒の希望をもとに購入できた本のリストや紹介文を図書だよりに掲載し生徒の興味を喚起しようとした。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1) 基本的な生活習慣の確立を図る。 (2) 生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。 (下位組織レベル) (1) 保護者との連携を密にし、相互理解の上で指導の充実を図る。 (2) 遅刻・欠席指導の徹底を図る。 (3) 身だしなみ指導の徹底を図る。 (4) 登下校指導を行う。 (5) 交通安全指導の徹底を図る。	評価指標 (1) 家庭への連絡実施回数 150回以上 (2) 遅刻者・欠席者の増減率 -20% (3) 身だしなみ検査延べ指導者数-20% (4) 車両定期点検の実施回数 5回以上 (5) 交通事故加害者数 0人 (6) いじめ問題件数 0件	評価指標の達成度 (1) 家庭への連絡実施回数 86回 (2) 遅刻者・欠席者の増減率 8.5% (3) 身だしなみ検査延べ指導者数-25% (4) 車両定期点検の実施回数 5回 (5) 交通事故加害者数 1人 (6) いじめ問題件数 0件	評定 総合評価 B (所見) 毎年ではあるが、1年生の遅刻者が多く、高校生(社会人予備軍)としての自覚が足りないように思われ、2年生も特定の生徒が多く遅刻をしている。また、欠席数も多く自分の進路に対して悩みや、迷いから欠席数が増えているように思われる。 身だしなみ指導では同じ生徒が繰り返し指導を受けることが多いが、減少傾向にある。交通安全指導、登下校指導等交通安全についての知識やマナーの更なる向上が望まれる。 いじめに関しては、言葉のすれ違いなどで、友人関係が上手く作れない場面や、表面上での関係等がアンケート調査で見られるが、大きな問題行動等は認められなかった。	○学校は集団生活をするため、規則や規律を守らなければならない。このことをしっかり身につけさせることが大切である。 ○いじめ・交通に係る事は命に直接関係する大きな問題として、指導の徹底に努めてほしい。 ○教師と保護者の連携を密にしつつ、生徒の生活指導にあたっていただきたい。 ○学校内外での態度等十分に評価できる。小規模校故に先生方が全校生徒の名前や性格等を十分知り一人一人にあった指導が行き届いているように思う。	○高校は社会に出るための準備環境であり、基本的な生活習慣を早急に確立させるために、個性を把握し、学校・家庭両面からのサポートが必要である。そのために年度当初に家庭訪問に行き、家庭状況を把握し、保護者との連携が密になるようにしなければならない。 2・3年生に対しても進路や学校生活で気になる情報があれば家庭訪問を実施する。また、遅刻・欠席・身だしなみ指導者の減少に結びつくのではないかと思われる。 ○交通安全については警察と連携し、指導を充実させなければならない。また、生徒自身による交通安全指導者(インストラクター)の養成にも力を入れていきたい。 ○いじめ問題の早期発見・早期対策に対する行動や改善策をより深く考えたい。
		活動計画 (1) 家庭訪問を実施する。 (2) -1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 (2) -2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底する。 (3) 毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。 (4) 車両登録をさせ、学期初めと学期終わりに安全点検と学期毎に集会を行い交通事故を未然に防ぐ。 (5) -1免有者に対して視聴覚教材を用いた指導を行う。 (5) -2登下校指導計画を作成し指導を行う。 (あいさつ、遅刻、服装) (5) -3全教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。 (6) -1いじめ問題の早期発見を行う。 (アンケート調査の実施) (6) -2いじめ問題の早期解決を行う。 (事後指導の確認)	活動計画の実施状況 1) 家庭訪問を1年生は全員、2・3年生は昨年から継続して担任している者以外全員、1学期間中に行い、生徒の進路や通学路の危険箇所確認ができ、家庭との連携も深まった。 2) -1遅刻カードにより遅刻者の把握と指導を行った。 2) -2無断遅刻・無断欠席数調査を行い、改善指導を進めた。遅刻・欠席者の保護者との連絡を確実に取った。 3) 毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施した。授業前・授業後に身だしなみを整える習慣が身についた。 4) 車両登録・安全点検を学期初めと学期終わりに実施できた。学期毎に全校・学年集会で交通安全に関する注意を行った。 5) -1原付の免有者に対し、視聴覚教材を用いた安全運転啓発ができなかった。 5) -2指導計画により指導を行いあいさつの励行及び身だしなみ指導ができた。 5) -3通学路の危険箇所確認と交通マナーの向上が図れた。 6) -1毎学期アンケート調査を実施した。 6) -2アンケート調査の結果を報告し、各担任等を中心に問題解決を行った。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力 (ソーシャルスキル)の育成	(全校レベル) (1)教育相談活動の充実と生徒支援に努める (2)生徒一人一人を理解し、個々の生徒のニーズに応じた支援を進める (下位組織レベル) (1)教育相談体制(特別支援を含む)の充実を図る。 (2)生徒理解を進めるために各種検査を効果的に実施する。 (3)特別支援教育職員研修の充実を図る。	評価指標 (1)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 30日(回)	評価指標の達成度 (1)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 10日(回)	評定 B 総合評価 B (所見) 毎週の教育相談日の体制が十分機能しなかった。教育相談日に拘らず放課後の時間を利用してコミュニケーションを取るよう心がけたことは有効であった。 各種検査は生徒の現状把握に役立っている。特に学校満足度調査QUは利用の価値が高い検査であると評価している。現在、1年生と2年生で実施しているが、経年的に比較できるので実施方法としても有効である。3年生については不要と考える。 教員研修を7月と12月に開催した。職員に感想を尋ねたところ、12月の高教研教育相談学会研究大会での大学での発達障がいがある学生への支援についての講演内容の伝達研修は「学力と発達障がい」の関係について認識してもらいよい機会となったと感じた。	○集団生活の中で、一人一人の生徒の話に耳を傾けることが一番である。生徒と担任との信頼関係の構築をいかにして進めるかが課題である。 ○意欲のある生徒の相談活動は用意であるが、目標等の定まらない生徒さんこそ相談支援が必要と思われます。
		(2)各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査QU)による生徒理解(各学年) (3)職員研修における職員の満足度アンケートで2/3以上が満足	(2)各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査QU)による生徒理解(各学年) (3)職員研修における職員の満足度聞き取りアンケートでおおむね満足		
		活動計画 (1)教育相談日を設けカウンセリングを行う。次のことに配慮する。 ①教職員への親しみやすさ ②教職員への相談の満足 ③教職員との信頼関係 (2)-1 各種検査を実施し生徒の困難さに気づき、問題を把握し、問題解決に向けて取り組む。 (2)-2 それぞれの生徒の能力を把握し、基礎学力向上に向けた取組を行う。 (3)職員研修を1学期・2学期に実施する。	活動計画の実施状況 (1)教育相談日を設けカウンセリングを行った。教育相談日が十分機能できていない。しかし、日常的な相談を行っており、両者がそろって効果が高まることが実感できた。 (2)-1 各種検査を実施し、各担任に分析結果を提示した。生徒の生活状態と心の状態の差異に気づき、その後の生徒生活指導の参考になった。 (2)-2 それぞれの生徒の能力を把握し、基礎学力向上に向けた取組を行った。マナトレの取組(ほぼマンツーマン指導)が効果的であった。 (3)職員研修を1学期・2学期に実施した。		○教育相談日の相談体制を活用するために、保健室やホームルーム担任からの情報を基に生徒を個別に呼び相談事業を行いたい。 ○学校満足度調査学校満足度調査QUを1・2年生で実施をし、さらに活用したい。 ○教員研修を7月と12月に実施予定で要望等の把握のためにアンケートを実施したい。

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
人権意識の高揚	(全校レベル) (1) 道徳教育と関連させ人権尊重の精神を基盤とした教育活動に努める。 (2) 日々の生活や研修等を通じ、教職員自身の人権意識の向上に努める。 (下位組織レベル) (1) 人権教育ホームルーム活動の充実を図る。 (2) 「学校人権の日」の取組の充実を図る。 (3) 人権教育教職員研修の充実を図る。 (4) 道徳教育ホームルーム活動の充実を図る。 (5) いじめ防止に等に関する具体的な取組を行う。	評価指標 (1) 「人権学習ホームルーム活動」実施回数5回・生徒の充実度 90%以上。 (2) 「学校人権の日」における生徒の充実度 90%以上。 (3) 人権教育教職員研修・年3回以上実施。校外人権教育研修等に全教職員、1回以上参加。 (4) 道徳教育ホームルーム活動を年間2回実施。各学期、道徳教育週間5日間実施。 (5) 学校生活アンケート毎学期実施・生徒の満足度100%。	評価指標の達成度 (1) 「人権学習ホームルーム活動」実施回数 5回・生徒の理解度87.6% (2) 「学校人権の日」における生徒の充実度85.0% (3) 人権教育教職員研修・年2回実施。校外人権教育研修・大会等に教職員延べ30名が参加。 (4) 道徳教育ホームルーム活動を年間2回実施。各学期、道徳教育週間5日間実施。 (5) 学校生活アンケート毎学期実施・生徒の平均満足度 79.3%	総合評価 B 今年度の取組で人権意識が高まったと感じている生徒は8割強であった。人権教育学習に対する生徒の理解度は高く、概ね目標を達成することができた。しかし、すべての生徒が積極的に活動し、人権課題を自分の問題として捉え、行動化できているとは言い切れない。 生徒会人権委員や人権研究部の生徒が各ホームルームで中心となって人権意識向上の啓発を行えるように、ボランティア活動や中高生人権交流集会に参加し自分の意見や考えを伝え、主体的に行動できる生徒が増えてきた。 道徳教育に関しては、教職員全員でその内容を共有し、道徳教育の重点目標を意識した教育活動を、組織的・計画的に実践することができた。また道徳週間を設定し、授業前には各教科担任より道徳教育に関する講話を頂いた。	〇生徒一人一人の人権に対する意識は一石二鳥でにできるものではない。教職員一人一人が人権意識を向上させる研修に努め、生徒と向き合っ、時間をかける必要がある。 〇道徳教育の重点目標の決定メンバーや内容のサイクルなどが気になった。	〇生徒アンケートで「自分たちだけでなく大人も人権教育に取り組むべきだ」が26.5%となっており教職員の人権意識の向上や量を高めるために研修の持ち方を工夫し生徒と日常的に人権について語れる雰囲気づくりを行う。 〇「人権問題を解決するのは不可能」だと答えた生徒が7.1%いたという事実をしっかり受け止め、正しい知識と人権尊重の心を育てる教育の充実を図る。 〇人間としての在り方、生き方に関する道徳教育を学校の教育活動全体を通じて行い、各課や各学年と連携しその充実を図る。
		活動計画 (1) 人権教育課とホームルーム担任との連携で教材を作成し、ホームルーム活動の充実と推進を図る。 (2) 人権委員会(生徒)が主体的に「学校人権の日」を運営する。当日の啓発の中心となるよう人権委員の事前指導を行う。毎回ふり返しシートを実施する。 (3) 講義形式による研修のほかに、ワークショップ形式や視聴覚教材等も利用した研修を行い充実を図る。 (4) 道徳教育の視点を全教職員に提示し道徳教育週間を実施する。 (5) いじめ未然防止・早期発見への取組を充実させるとともに、各学年・各課との連携により組織的な対応を図る。	活動計画の実施状況 (1) 学年団と連携して、指導案を作成し、活動の充実と推進を図った。 (2) 人権委員会が学校人権の日の司会進行を担当した。また、実施後の振り返りシートを毎回実施した。 (3) SNSでのトラブルなど、今年度の生徒の実態に即した人権講演会を実施した。また、学校人権の日と連動させ、人権ホームルーム活動を実施した。 (4) 学年団との連携で、道徳教育ホームルーム指導案を作成、学校全体でホームルーム活動の充実と推進を図った。また、道徳教育週間を実施した。 (5) 生徒指導課と連携し、学校生活アンケートを学期毎に実施した。また回答内容で気になる生徒に対して、面談を実施した。			

備考 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1)特別教育活動の充実を図る	評価指標 (1)ホームルーム活動満足度 85%以上 (2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 85%以上 (3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上 (4)部活動の加入状況 80%以上	評価指標の達成度 (1)ホームルーム活動満足度86.9% (2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度88.5% (3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 4.8回 (4)部活動の加入状況 75.8%	評定 総合評価 A A C B B (所見) 全体的には概ね目標を達成できた。 体育祭や楓祭などの学校行事では生徒会と教職員が連携して活動した結果、一定の成果を収めた。特に前日祭は生徒会と実行委員が様々な企画を立案し、多数の生徒が参加することができた。実行委員を希望する生徒も年々増えており、生徒会を中心に、教師の適切な指導の下生徒の自発的・自治的な活動が展開できている。 学期当初に各種専門委員会を開くことにより、委員の仕事を確認させることができた。しかし主だった活動ができなかった委員会もあり、運営方法を考える必要がある。 部活動入部率は評価指標には達することができなかったが、主な活動実績からもわかるように、熱心に継続した活動を続け、県下でも顕著な成績を収めることができている。	○ホームルーム活動満足度が非常に高いことは、生徒が学校生活を送るために一番大切なことである。学校生活全般の向上に繋がると思うので、根気強く進めてほしい。 ○今後、部活動(スポーツ)は、少人数でも行えるものを選択すべきである。	○生徒会執行部は活発に活動できているが、各種専門委員会の活動には開きがある。それぞれの役割を明確にし、自覚を持たせた活動を促したい。 ○部活動の加入率は低くはないが、体育部に所属する割合は低く、団体競技の活動が困難になってきている。また入部はしているものの、積極的に活動している生徒が減少している。生徒の実態に応じた部活動の精選・見直しが必要である。 ○学校行事については、学校や地域及び生徒の実態に応じて、各種類ごとに、行事及びその内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなど精選して実施していく。
	(下位組織レベル) (1)ホームルーム活動の活発化を図る (2)各種専門委員会活動の推進を図る (3)生徒会活動・部活動の活性化を図る	活動計画 (1)よりよい人間関係づくりに努める。 (2)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 (2)-2前日祭実行委員会の活動の充実に努める。 (3)各種専門委員会の活動の充実に努める。 (4)部活動の充実に取り組む。	活動計画の実施状況 (1)年度当初にホームルーム活動計画を行い、1年42時間、2年40時間、3年37時間、年間計画に沿って行うことができた。学年合同でのホームルーム活動も行い、親睦を図ったり、進路情報を共有したりすることができた。 (2)生徒会執行委員会を10回開催し、各行事の計画・準備・運営にあたり、意欲的に活動することができた。前日祭実行委員とよく協力し、前日祭を成功させることができた。 (3)学期当初に専門委員会を開いたが、開催回数は前年並みであった。活動内容も不十分と感じる委員会もある。 (4)部活動の入部率(75.8%) 情報処理部(四国ワープロ競技会優勝、全国ワープロ競技会・全国情報処理競技会出場) 会計研究部(四国競技会出場) レスリング部(四国大会出場)			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1) 環境教育の推進を図るために、三好高校エコスクールの推進と新学校版環境ISOの推進を実践する。 (2) 学校防災教育の推進を図るとともに、地域防災との連携を図る。 (下位組織レベル) (1) 校内外の美化活動を推進する。 (2) 省エネルギー・リサイクル運動を推進する。 (3) 防災学習の充実 (4) 防災訓練の充実 (5) 教職員生徒の防災意識向上及び防災リーダー育成を行う。	評価指標 1) 新学校版環境ISOの総合評価レベル15以上。 ①美化活動・エコ活動の達成度 90% ②節電昨年度比 10%減少 廃油の公用車等への利用 100% 2) 学校防災の実践活動における実施時数 6時間以上 ①HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 100% ②防災避難訓練実施 校内1回、地域との連携活動1回以上	評価指標の達成度 1) 新学校版環境ISOの総合評価レベル15。 ①美化活動・エコ活動の達成度 90% ②節電昨年度比 10%減少 廃油の公用車等への利用 100% 2) 学校防災の実践活動における実施時数6時間 ①HRにおける防災・救急救命学習時間の実施100% ②防災避難訓練実施 地震避難2回、火災避難1回実施	評定 B B A A A B (所見) 新学校版環境ISOの基本理念に基づき、三好高校エコスクールの実践に努めた。学校防災教育の推進を進め、防災学習の充実について実践することで防災意識を高め、高校生防災士の育成に繋ぐことができた。	○生徒が学校生活を送るうえで環境を良くして防災対策を徹底することは命に係ることである。今後においても強力で推進してほしい。 ○職員・生徒に活動の状況を常時報告できるようにする。 ○最新の情報を伝え、防災教育の意義を伝える。 ○年度当初に地域の連携機関に連絡し、日程等をつめて実践できるようにする。	○校内の掲示方法や、啓発について工夫する。 ○日程の調整や、生徒への連絡を密に行う。 ○職員・生徒に活動の状況を常時報告できるようにする。 ○最新の情報を伝え、防災教育の意義を伝える。 ○年度当初に地域の連携機関に連絡し、日程等をつめて実践できるようにする。
		活動計画 1) ①-1校内外の清掃美化実践をする。 ①-2施設設備の補修等即対応する。 ①-3ゴミの分別100%を目指す。 ②-1エコキャップ・廃食油の回収と活用を実践する ②-2毎月の電気使用量についてデータを配布する。 ②-3こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。 2) ①-1防災学習をして意識を高める。 ①-2救急救命の適切な指導をする。 ②-1有事の際に対応できる防災避難訓練を計画。 ②-2災害発生時の生徒・職員の生命・身体の安全を確保を目的とした防災研修を実施する。 ②-3地域との連携を図り、合同訓練の実施を計画・実践する。	活動計画の実施状況 1) ①箸蔵駅の清掃活動や校内のゴミ収集を毎月実施し、清掃美化を実践できた。校内の施設設備について、破損箇所等について即実な対応ができた。ゴミの分別について清掃時に確認し、徹底できた。 ②エコキャップの回収活動を続け、年間で40kg回収できた。電気使用量データを記録し、昨年度との比較ができた。 2) ①防災学習を2回、救急救命指導を2回実施できた。 ②避難訓練を2回、火災避難訓練を1回、実施できた。地域との連携については実施できなかった。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1)生徒一人一人が健康で安全な学校生活をおくる保健厚生への取組の充実を図る。 (下位組織レベル) (1)個々の健康管理を支援する。 (2)健康教育の充実に努める。 (3)性に関する指導を推進する。	評価指標 (1)保健室利用状況 前年度以下 (2)保健関係ホームルーム活動 各学年・年2回以上 (3)保健だよりの発行 年12回 (4)①健康状態の把握 90%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度 90%以上 (5)性に関する指導の理解度 90%以上 (6)救命救急法等の研修実施 年1回以上	評価指標の達成度 (1)保健室利用件数 212件 (前年度355件) (2)保健関係ホームルーム活動 各学年2回実施 (全学年対象講演会1回含む) (3)保健だより発行 8月以外の毎月発行。合計11回 (4)①健康状態の把握 84.88% ②疾病やけがの手当等の理解度 85.1% (5)性に関する指導の理解度 91.6% (6)救命救急法等の研修実施 年2回 教職員対象1回 部活動生対象1回	評定 A A B C A A	総合評価 B (所見) 保健室利用状況は、今年度の利用者数は少なかつた。生徒数減少も理由の一つであるが、昨年度、利用の多かつた1年生が2年生になると利用回数が減っており、生徒達が、自分の進路や目標などに向けて頑張っている良い傾向にあることも理由だと言える。 保健教育については、講演会やホームルーム活動後のアンケートでは、毎回良いリアクションが返ってきていた。特に講演会では、三好保健所にもご協力いただき、全国で講演活動をされている山本文子先生をお呼びでき、生徒も今までにないくらい熱心に話を聞いていた。 救命救急法の研修では、今年度はアレルギー疾患に対応したエピペンの講習も行った。生徒の健康課題が多様化する中で、緊急時における学校の役割も変化しており、最新の知識への更新と職員の意識を高める重要性を感じた	○学校生活において、安全は第一である。生徒一人一人が自分の健康状態を把握できる対策を今後とも進めていく必要がある。 ○保健室の利用者については、少ないことは良い傾向だと思うが、保健室を利用しない生徒の中にも問題や悩みを抱える生徒がいる。そのような生徒を見逃さないためにも、教職員間での情報交換をより一層密にしていく必要がある。 ○保健教育については、知識の獲得だけでなく、その得た知識を行動に移す実践力を養うことも必要となってくる。講演会やホームルーム活動は実施したら終わりではなく、保健だより等を利用して、振り返りを行ったりと、事後指導にも力を入れていきたい。また、性に関することや、生活習慣改善に関しては、関係の教科でも取り扱ってもらうなど、校内での協力体制も整えていきたい。 ○救命救急法の研修については、生徒の健康課題の変化に合わせながら、常に最新の正しい知識が得られるよう、引き続き実施していきたい。研修内容については、繰り返しの講習や練習を大切にしながら、マンネリ化しないように工夫したい。
		活動計画 (1)生徒の実態に応じた保健指導を行うとともに、保健室の利用について指導を行う。 (2)健康教育ホームルーム活動、性に関するホームルーム活動を計画的に実施する。 (3)学校ホームページや生徒への配布物を通して、健康に関する情報発信を行う。 (4)生徒の健康課題や保健室の実態を保健指導に生かし、生活の改善を図る。 (5)各学年において系統的な性に関する指導を実施するため、年間計画を策定し、関連する各教科と連携を図る。 (6)救命救急への適切な指導を行う。 (1)~(6)学校保健・安全計画を作成し、計画的な指導を行う。	活動計画の実施状況 (1)教職員へ各学期末には、保健室利用状況のまとめを周知し、共通理解を図っている。また、頻回来室者については、欠課時数や進路選択なども含めた指導を行った。 (2)ホームルーム活動では、それぞれの学年の実態に応じたテーマを決め、実施することができた。また、今年度は三好保健所との共催事業として、性教育講演会を1回開催することができた。 (3)保健だよりは、夏休みを除く、毎月1回発行できた。季節に関する事柄であったり、生徒アンケートを実施した際には、その結果を反映させるなど、生徒の興味関心を引く工夫を行った。 (4)学校保健委員会を開催し、生徒の歯科保健に関する現状や、健康診断について、教職員、学校医、保護者を交えて協議することができ、改善へ向けての手立てを考えることができた。 (5)学年や各教科と連携を図り、性に関する年間指導計画を策定した。 (6)教職員対象と部活動生対象でそれぞれ1回ずつ実施した。教職員対象の研修では、アレルギー疾患に対応したエピペンの講習も実施した。 (1)~(6)年度当初に学校保健計画と学校安全計画を策定し、全教職員で共通理解を図るとともに、計画的かつ継続的な指導を行っている。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) (1)一人一人の生徒の能力適性を生かした進路の実現のための進路指導・キャリア教育を推進する。 (下位組織レベル) (1)生徒の進路希望の把握と進路意識の高揚に努める。 (2)進路情報の提供を丁寧に継続的に行う。 (3)事業所・進学先・ハローワーク・市役所等との連携に努める。 (4)生徒の学力の実態把握に努め、学力向上を推進する。	評価指標 (1)3年生進路内定率 100% (2)2年生終了時の進路希望未定者 0 (3)進路希望調査 年間2回以上 (4)面接回数 一人あたり3回以上 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)進路説明会等の満足度 80%以上 (7)事業所訪問 30社以上 (8)進路補習への参加率 80%以上 (9)マナトレ実施状況 ①実施回数 15回以上 ②7級合格率 80%以上 (10)効果的な進路講演会の実施 3年生3回(4, 5, 12月)	評価指標の達成度 (1)3年生進路内定率 100% A (2)2年生終了時の進路希望未定者 3 B (3)進路希望調査 年間2回 A (4)面接回数 一人あたり 3回以上 A (5)進路ホームルーム活動 年間3回 A (6)進路説明会等の満足度 86% A (7)事業所訪問 26社 B (8)進路補習への参加率 93% A (9)マナトレ実施状況 ①実施回数 22回 A ②7級合格率 5.2% C (10)効果的な進路講演会の実施 3年生3回(4, 5, 8月) A	総合評価 B (所見) 雇用環境の好転から3年生の進路内定が2学期終了時点で早々に確定できたことは喜ばしいことであった。しかし希望が叶わず複数回受験した者も7名存在する。事業所が望む人材の把握、本校の進学補習のあり方等、再構築していく必要がある。また、早期から進路意識を持たせ、生徒自らが積極的に企業研究をしたり、オープンキャンパスやガイダンス等に参加したりする環境作りにも努める必要がある。本年度、1年生で外部業者に委託し職業体験学習を実施したが、満足度も高く効果があったと思われる。来年度も実施する方向で考えていく。さらに、受験への基礎学力強化に向け、数学マナトレの学習時間の活用方法を再度見直さなければならない。生徒の答案をもとに分析をし、生徒が学びやすく効果の上がる個別指導やアクティブラーニング等を取り入れながら、各クラスに応じた方法で実施していく必要がある。	○厳しい就職状況の中で、一人一人の生徒たちの個性や特性を生かし、内定率の100%達成に先生方の努力が目につく。今後も生徒たちの進路保障をお願いしたい。 ○農業教育で学んだことを生かせる農業法人が県西部にあれば良いが。 ○今後とも、地域の活性化に役立つ子どもたちを育てていきたい。	○今後、生徒数が減少し学校の規模が小さくなる。その中で「三好高校らしさ」を作り育てていくために何をすべきか考える必要がある。 ○キャリア教育課としては、第一に出口の保障。つまり、生徒と保護者の望む進路実現に向けて最大限の支援をしていく。第二に、そのために、三好高校ブランドを作っていく。その基盤が三好高校スタンダードである。 ○挨拶ができて、適切な言葉遣いができ、身だしなみもきちんと整っている生徒に基礎学力と専門の知識・技術を身につけさせることを課題とする。 以上の目標・課題実現のために次年度も様々な方法で生徒に働きかけていく。
		活動計画 (1)個人・三者面談等を積極的に企画。3学年団との協力を密にする。 (2)面談の結果から進路指導の基礎資料を作成する。 (3)定期的に進路希望調査を行う。 (4)効果的な面接方法についての資料提供等を行う。 (5)進路ノートを活用し3年間の系統的なホームルーム活動を実施。また効果的な資料も提供する。 (6)進路説明会の資料を充実させる。 (7)これまでに関係のあった事業所同様、新規開拓にも力を入れる。 (8)公務員模試・適性検査等を実施し進路意識を高める。 (9)マナトレ学習帳を各自使用し、個々の学習進度に応じたトレーニングに励ませる。 (10)適切な時期に適切な話をしてもらえる講師を探し、生徒の心に訴えるような講演会を企画する。	活動計画の実施状況 (1)3学年担任が積極的に面談計画を立て生徒理解と指導に努めた。 (2)個人面談の結果を表に就職開拓・企業訪問に役立てた。 (3)2回実施。 (4)資料提供および面接・マナー指導を実施(各学年1回)。 (5)進路ノートの活用が不十分であったが、各学年団が効果的なホームルームを実施した。 (6)外部業者に委託し、資料・内容も充実。生徒が満足できた。 (7)ハローワークを介し新規開拓に努め、求人・雇用1件。 (8)公務員模試2回のべ27名受験。SPI、職適検査1回、小論文模試2回2名受験(3年生)。 (9)個々にトレーニングしているが、結果がでていない。 (10)3年生の講演会を3回企画。3学年団と協議し適切な時期に適切な講演会が実施できた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	今後の改善方策
キャリア教育	(全校レベル) (I)特色ある農業教育の推進を図る。 (2)地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。 (下位組織レベル) ①地域連携の推進を図る ②教職員の資質向上を図る ③資格取得の推進を図る ④農業クラブ活動の活性化を図る	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	○地域性を生かした農業教育の推進は特産物の開発が課題である。このことが担い手の育成に連携するので、力を入れてほしい。 ○耐震工事などで行えなかった実習等への対処をお願いしたい。 ○地元に残って頑張っている「農業後継者クラブ」での実習を行ってはどうか。農業で生活できることをPRし、地元に残る生徒を作ってほしい。 ○特性を活かした教育の充実を図り、スムーズな移行を期待している。	○生徒の課題・地域の課題を常に把握し、その解決を目指す取組を充実させることが、本校農業教育の活性化につながると捉え、現在の取組を継続、深化させたい。そのためには、関係団体との連携をさらに密にすることで、地域の教育資源を有効に活用することが望まれる。さらに、上記の取組を遂行することで、学校の存在価値・生徒の学習価値を高め、生徒の進路へとつなげていくことが重要である。
		(1)特産品の開発と普及(4品目以上) (2)農業科授業研修の実施 年間3回 (3)学校開放講座参加者の満足度 100% (4)農業技術検定合格率 80%以上 (5)学校農業クラブでの成果 県予選3種目以上入賞 (6)地域と連携した取組の推進 年間40回以上 (7)授業に対する生徒の満足度 80%以上	(1)特産品の開発と普及 4品目 (2)農業科授業研修の実施 年間3回 (3)学校開放講座参加者の満足度 100% (4)農業技術検定合格率 40.6% (5)学校農業クラブでの成果 県予選入賞4種目 (6)地域と連携した取組の推進 年間62回 (7)授業に対する生徒の満足度 96.0%	A A A C A A A	B		
		活動計画	活動計画の実施状況	科目「地域貢献」等を活用し、本校農業教育の特色の1つである地域と連携した取組を推進することにより、本校のみならず、地域の活性化につなげることができた。また、その取組において、関係団体とネットワークを構築することにより、専門科目の深化・生徒の進路につながった。 また、地域の課題を本校農業教育に取り入れるスキルの習得・関係機関とのネットワークの構築等は、本校教職員の資質の向上につながり、本校の強みになっている。 資格取得に関しては、生徒の意識の高揚を図るとともに、指導体制を検討する必要がある。			
		(1)-1ホンモロコ・ホンシメジの普及活動を推進する (1)-2サギソウの増殖活動を推進する (1)-3薬草を利用した商品開発 (2)教職員の資質向上を目的とした授業研修を実施する (3)学校開放講座の実施により、地域連携・開かれた学校作りを推進する (4)農業技術検定に対応した補習体制を構築する (5)生徒の意識の高揚を図り、学校農業クラブ活動を活性化する (6)科目「地域貢献」の適正な活動計画と内容の充実を図る。 (7)実習ノートを活用し、実習科目の充実を図る	(1) -1ホンモロコにおいては、西部県民局、地元企業と連携し普及活動を実施することができたが、ホンシメジにおいては本年度は十分過活動に及ばなかった。 (1) -2十分に活動できなかった。 (1) -3地元企業と連携し、普及に努めることができた。 (2) 計画とおり実施し、教職員の資質向上につなげることができた。 (3) 参加者のニーズに対応した開放講座を実施することができた。 (4) 計画とおり補習を実施したが、合格率を上げることはできなかった。 (5) 意見発表で、全国大会に出場するなど一定の成果を収めることができた。 (6))年間62回地域と連携した取組を実施することができた。 (7) 販売実習・開放講座等の取組を専門科目につなげることができた。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成27年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
キャリア教育	(全校レベル) (1)生徒一人ひとりの理解力と興味関心に応じた授業の工夫により生徒の学習に対する意欲を高める。 (下位組織レベル) (1)商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる (2)各種検定・資格の取得を積極的に推進する。 (3)実践的・体験的学習を充実させる	評価指標 (1)授業評価による生徒の授業満足度 85%以上 (2)ワープロのタッチメソッド操作 100% (3)3年生の3種目以上1級検定合格率 40%以上 1・2年生の各検定合格率 90%以上 (4)販売実習の実施 10回以上 (5)競技会の全国大会出場 3大会	評価指標の達成度 (1)授業評価による生徒の授業満足度 96% (2)ワープロのタッチメソッド操作 100% (3)3年生の3種目以上1級検定合格率 64.3% 2年生の各検定合格率 90.7% (4)販売実習の実施 7回 (5)競技会の全国大会出場 2大会 ワープロ団体 情報個人	評定 総合評価 B (所見) 3種目以上1級合格者は3年生14名中9名で、うち6種目1名、5種目2名、4種目2名、3種目4名であった。2年生は3種目を10名の者が既に取得している。また、一昨年度より国家資格の合格率が高くなり、平成24年度の学科再編により、情報処理教育に特化した成果が現れている。先生方の日々の創意工夫した授業展開、放課後の熱心な粘り強い指導が功を奏したと言えよう。 各種競技会出場に向けても熱心な指導により、左記のような優秀な成績を得ることができた。生徒数減少の中、厳しい状況を克服しての結果である。次年度は情報ビジネス科が最後の年である。有終の美を飾って幕を閉じたい。	○生徒数、教員数の減少にともなうデメリットが多い中、それぞれの分野でできる限りの努力をしていく。 ○最終年度の締めくくりとして、各競技会入賞、販売実習等による地域貢献の両立が図れるよう工夫する。 ○生徒の実態を把握し、各種検定取得や授業の理解度アップに向け、より一層細やかな指導を試みる。
		活動計画 (1)生徒の実態にあった授業を展開する。 (2)オリエンテーションで生徒の意識を高め、効果的な指導を行う。始業時、終業時における挨拶の徹底を図る。 (3)検定前補習や個別指導を適宜行う。 (4)校内販売所、東西祖谷での実習に加えて池田商店街への出店を計画実行する。 (5)各種競技会に向けて選手の競技力向上を図る。	活動計画の実施状況 1) 習熟度別やT.Tの授業を展開することにより、きめ細かい指導が実施できた。 2) 毎時間、服装や挨拶を通してビジネスマナーの向上を目指したが、十分に徹底できたとはいえない。 3) 国家資格であるITパスポート試験に9名合格した。 4) 校内販売や東西祖谷出張販売は計画通り実施でき、地域貢献に努めた。池田出張販売は実施していない。 5) ワープロ競技会に於いて、県大会団体7連覇、個人1位～3位、四国大会団体1位、個人2位・3位を成し遂げ、全国大会では個人の部で佳良賞を受賞した。また、情報処理競技会では、団体2位、個人第1位の成績を収め本年も全国大会出場を果たした。さらに、電卓競技会に於いても、四国大会に県代表として1名出場し、種目別競技の部で3位を受賞した。		

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成27年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) (1)教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高める (下位組織レベル) (1)小中学校へ情報発信(異校種間連携)を行う。 (2)地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。 (3)学校Webページを活用して情報発信に努める。 (4)PTA活動の活性化に取り組む。	評価指標 (1)学校Webページの情報発信状況 年間50回以上 (2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 20回以上 (3)文化祭(楓祭)での来校者の満足度 70%以上 (4)学校開放講座の参加者の満足度 100% (5)保護者の学校行事等への参加状況 年間100人以上	評価指標の達成度 (1)学校Webページの情報発信状況 年間65回 (2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 18回 (3)文化祭(楓祭)での来校者の満足度 85.7% (4)学校開放講座の参加者の満足度 100% (5)保護者の学校行事等への参加状況 年間127人	評定 A B A A A 総合評価 B 機能移転工事などによる施設利用の制限があったにもかかわらず、PTA役員の方々の積極的な取組により、楓祭・体育祭など充実した活動内容となった。 また、専門高校の特性を生かした地域連携など、新聞、テレビなど、メディアで報道された回数も多く、HPなどとあわせ、本校な活動を十分に発信することができた。 PTA活動・組織のありかた、学校HPなど高校再編に向けてさらに検討を加える必要がある。	○地域社会との連携は、目に見えない教育成果を上げることができるので、今後一層地域に学校を開き、地域の学校づくりを目指してほしい。 ○メディアでの報道は、地域の方々に広く三好高校の取組を発信できるので、今後も積極的に情報提供してほしい。 ○今年も新聞、テレビでの地域連携を見て満足した。	○保護者・地元の方々との交流やHP等をとおして、本校教育活動を広報するとともに、有益な意見は積極的に取り入れ、本校教育活動の活性化につなげていきたい。
		活動計画 (1)担当者との連携を図る。 (2)-1幼稚園、小学校に食農教育の教材の提供を行う。 (2)-2地域の文化祭等の催し、行事に参加をして本校教育の理解を図る。 (3)楓祭、販売・展示の充実を図る。 (4)体験入学、開放講座などを実施して本校教育への理解を図る。 (5)役員会等の活性化を図り、参加者の増加を進める。	活動の成果・課題 (1)PTA役員と情報を共有し、各種行事の活性化につなげることができた。 (2)-1幼稚園での食育教育、学校農場を利用しての芋掘り、クリ拾いなど本校と異校種の教育活動を融合することができた。 (2)-2地域のイベント等に積極的に参加し、販売・パネル展示等とおし本校教育活動を広報できた。 (3)生徒数の減少などにより十分な内容ではなかった。早期より準備を図る必要がある。 (4)中学生体験入学を2回、開放講座を8日間実施し、本校教育活動の広報につなげることができた。 (5)PTA役員会などでは、建設的な意見を多数いただき、PTA行事の活性化につなげることができた。また、各種行事では、生徒数の減少にもかかわらず多くの保護者に出席いただいた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要